

I. 業務の内容

1. プログラム名	令和5年度女子中高生の理系進路選択支援プログラム
2. 企画名	リケジョ育成のためのプログラミング教育と実験的学び ～環境と防災をテーマにして～
3. 実施期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日
4. 実施機関	<p>実施機関名：京都光華女子大学</p> <p><契約担当者> 所在地：〒615-0882 京都市右京区西京極葛野町38 役職名：学長 氏名：高見 茂</p> <p><実施責任者> 所在地：〒615-0882 京都市右京区西京極葛野町38 役職名：学長 氏名：高見 茂</p>
5. 本企画における 全体の目的	<p>◆企画全体の目的</p> <p>近年、環境問題や異常気象・地震により、多くの方が命を落としている。このため文部科学省は環境と防災に関する教育・研究を強力に推進している。女子中高生の中には、世界中で苦しむ環境難民や、辛い（特に、女性の）避難所生活に心を痛めたものも多いただろう。このような環境・防災分野は生活に密接に関係した分野であり、かつ、女性の活躍が大いに期待される分野であるが、その専門性は高度な理系分野でもある。そして、この理系分野については同省がSociety5.0の時代に対応できる人材育成として、その基幹領域にプログラミング教育を提示している。</p> <p>そこで本プログラムでは、環境・災害をテーマとして、プログラミング教育と実験を通じた理系女子育成の観点から、一人でも多くの女子中高生が環境・防災教育をきっかけに理系進学（特に、工学部・理学部）をめざすことを目的とする。</p>

6. 業務項目別線表（結果）

業務項目（取組）	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
① 概論授業とプログラミング教育			4			2		2				
② 環境・防災サイエンスツアー			1		1	1		1				
女子中学・高校訪問			1				1					
広報用パンフレットの制作											1	
特設ホームページの更新&動画コンテンツ作成											1	
教育委員会、教科ワーキング、京都府私立小学校・中学高等学校連合会を通じた広報						1						1
参加機関との定例会						1						1

7. 企画の成果とその分析、自己評価

7-1. 当該年度における達成目標に対する実績

達成目標に対する実績					
<p>◆参加者到達目標（令和5年度）の目標</p> <p>女子中高生延べ260名以上 うち女子中学生110名以上・女子高校生150名以上 保護者35名以上・中高教員35名以上</p> <p>◆令和5年度の実績</p> <p>女子中学生49名（達成率：45%）・女子高校生338名（達成率：225%）・合計387名（達成率：149%） 保護者16名（達成率：46%）・中高教員30名（達成率：86%） 総参加者数：433名（達成率：131%）</p>					
達成目標と実績					
大項目	中項目	小項目	目標	実績	注記等
参加人数	女子中高生	中学1年生 (中等教育学校1年生)	60人	5人	
		中学2年生 (中等教育学校2年生)	50人	44人	
		中学3年生 (中等教育学校3年生)	0人	0人	
		高校1年生 (中等教育学校4年生)	70人	42人	
		高校2年生 (中等教育学校5年生)	80人	90人	
		高校3年生 (中等教育学校6年生)	0人	206人	
		小計	260人	387人	
	保護者		35人	16人	
教員		35人	30人		
広報活動	マスメディアへの取り扱い回数		2回	3回	学会・講演会等
(備考)					

達成目標に対する実績（内訳）

取組内容	実施日	実施場所	募集対象		参加者内訳								合計	
			対象者	人数	中1	中2	中3	高1	高2	高3	保護者	教員		
①概論授業・プログラミング教育	6月4日	京都光華女子大学	女子高生 保護者	50 25						2	10	11		23
	6月13日	京都府立東稜高校	女子高生 教員	-						37			4	41
	6月20日	京都府立東稜高校	女子高生 教員	-						2			2	4
	6月24日	京都府立朱雀高校	女子高生 教員	-				26	26				5	57
	9月15日	京都府立北稜高校	女子高生 教員	-						2			3	5
	9月26日	京都光華女子大学	女子高生 教員	80						12			5	17
	11月27日	兵庫県立明石高校	女子高生 教員	-							195		5	200
	12月8日	京都光華女子大学	女子高生 教員	50		42							2	44
②環境・防災サイエンスツアー	6月28日	京都光華女子大学	女子中高生 教員	15	2	2		6	7				2	19
	8月12日	京都大学 芦生研究林	女子中高生 教員 保護者	20	3			1				4		8
	9月9日	京都大学 上賀茂試験地	女子中高生 教員 保護者	20				3	2	1	1	1	1	8
	11月15日	京都光華女子大学/京都光華高校	女子中学生 保護者	15						6			1	7
計 ※入力不要					5	44	0	36	96	206	16	30	433	

【特記事項】

※募集対象の人数は、定員を設けていない部分は「-」とし、数値を入れている部分は特に内訳を設けていなかったため合計人数を記載している。

7-2. 業務計画に対する結果の詳細

【1】取組

取組①：概論授業・プログラミング教育	
時期	2023年6～12月
対象	中学生・高校生 教員・保護者
人数	中学生 42人 高校生 312人 教員 26人 保護者 11人
形態	すべて対面
場所	主に実施中高校。 内容より場所は異なる。

【1】女子中高生への取組

①概論/プログラミング授業の実施

防災と環境に関する概論授業とプログラミング授業を実施した。受け入れ校の要望に応える形で、理系進路の魅力などを伝える内容をテーマとする講義についても、①の取組として実施した。

①-1 2023年6月4日（計画外：後から追加）
場所：京都光華女子大学、対象：女子高2（2名）、女子高3（10名）、保護者（11名）
内容：「京都の山はシカだらけ？VRで大自然を体験しよう」と題して実施した。講義では、日本では温暖化や狩猟者の高齢化によりシカ頭数が増加傾向にあること、本学が立地する京都ではその傾向が特に大きいことを、推移グラフなどを用いて説明した。
工夫：本事業で制作したVR動画（@芦生研究林偏）を使って実際のシカの影響が出ている自然林を散策した。参加した高校生や保護者は、VRという非日常を通じて環境問題をリアルに学ぶことができた。

①-2 2023年6月13日（計画外：後から追加）
場所：京都府立東陵高校、対象：女子高2（37名）、教員（4名）
内容：「魅力的な文章の書き方ー理系の文章はビジネスで役立つー」を実施した。ここでは、典型的な文系の文章と理系の文章を紹介し、理系の文章の場合は、誰が読んでも同じ解釈になることが重要であることを説明した。そして、ビジネスシーンにおいては、特に理系の文章が重要になる場合が多いことを説明した。
工夫：授業終了後にキャリアガイダンスを実施し、進路選択においては自分の得意・不得意ではなく、好きかどうか重要であること、エンジニアや医師など、理系の職業から文系の職業に就くことはできるが、専門性の観点からその逆は難しいこと等を解説した。併せて、理系進路の魅力について、講師のエンジニアの経験を説明し、高校生の理系進路選択に関する情報を提供した。なお、当教員以外にも声掛けし参加いただいた。

①-3 2023年6月20日（5月に計画していた内容を6月に実施）
場所：京都府立東陵高校、対象：女子高2（2名）、教員（2名）
内容：「数字でみる京都の環境問題」と題して、概論授業を実施した。この授業では、最初に日本全国におけるシカによる被害状況の推移について、グラフを用いて説明し、次に、京都府における被害状況や捕獲状況、さらにシカ肉利用状況について統計学的な観点から説明した。
工夫：動物の頭数というカウントが困難なものでも、統計学的手法（高校でも習う中間値や信頼区間などの数学的説明を入れながら）を用いて、ある程度は推定されるという部分を詳しく説明した。担当教員以外にも声掛けし参加いただいた。

①-4 2023年6月24日（計画外：後から追加）
場所：京都府立朱雀高校、対象：女子高1（26名）、女子高2（26名）、教員（5名）

	<p>内容：「大学での学びについて」と題して講義を実施した。ここでは、「人文科学」「社会科学」「自然科学」の学問体系を紹介し、それぞれの科学にける大学の学部や学科について具体的に説明した。さらに、大学での学びは細分化しているものの、実際の社会課題（例えば、太平洋島嶼国におけるプラスチックごみ問題、海面上昇など）は、ひとつの学問からのアプローチでは解決は難しく、理系でも工学や理学、農学等多くの専門性が必要になってくることを解説した。</p> <p>工夫：文系か理系か進路を考えるにあたり、理系に進んでも文系の仕事（例えば、会社の事務や営業として働くなど）に就くことはできるが（実際には多くの人がそうである）、文系に進んでも理系の仕事（例えば、会社の研究職やエンジニア）に就くことは、専門性の観点から難しいことなど、具体的な事例を挙げて紹介した。</p> <p>①-5 2023年9月15日（計画内） 場所：京都府立北稜高校、対象：女子高2（2名）、教員（3名） 内容：「探究学習を単なる調べ学習で終わらせないために」と題して実施した。環境と防災をテーマとした場合の「総合的な探究の時間」のねらいや目的を紹介した他、この学びを単なる調べ学習で終わらせないために、ものごとを多角的な視点で見ることの重要性を提示した。 工夫：参加者はクリッカー（数字が並んだりモコン）を使って、こちらの質問に対して、番号を選択して自分の意見を示すなど、双方向型の授業を実施した。また、探究内容をまとめる中で、統計学が重要であることを示し、アンケート結果等を単に平均値で比較するのではなく、t検定など数学的検定が重要になることを述べた。</p> <p>①-6 2023年9月26日（10月に計画していた内容を9月に実施） 場所：京都光華女子大学、対象：女子高2（12名）、教員（5名） 内容：最初に、環境をテーマとして本事業で開発したVR動画と購入した専用ゴーグルを使って、森林における環境問題に関する授業を実施した。次に、エネルギー教育をテーマに、発電所で電気が作られる仕組みや、水素エネルギーについて実験を通じて授業を実施した。 工夫：VRを使った授業を導入した。その臨場感に生徒も驚いた様子であった。なお、授業内の実験部分については、連携機関の大阪科学技術センター（OSTEC）により実施された。</p> <p>①-7 2023年11月27日（計画外：後から追加） 場所：兵庫県立明石高校、対象：女子高3（195名）、教員（5名） 「女の言い分・男の言い分」をテーマに京都光華女子大学のキャリア形成学科教員4名が講義した。将来なりたい職業として、研究者やエンジニアなどの理系職から文系職までを並べて選択してもらい、男女に違いがあるかどうかを確認しながら講義を進めた。そして、「モザイク脳」の概念について触れ、本来、男女間の能力や思考に差異はなく、結果的に生じる差異は環境における後天的な影響が大きいことに言及した。そして、もし、「女子だから理系を選択しない」と考える人がいたら、それは脳科学的にも根拠がないことで、是非、自信をもって理系に進学してほしい旨、説明した。 工夫：講義で使用した質問には、前述のクリッカーを利用することで、双方向型の授業を充実させることができた。</p>
--	---

	<p>①-8 2023年12月8日(計画内)</p> <p>場所：京都光華女子大学、女子中2(42名)、教員(2名)</p> <p>内容：本学キャリア形成学科の女性教員による指導のもと、マルチエージェントシミュレータ artisoc を使いコンピューターの中に人口環境を作成した。</p> <p>工夫：最初は、鳥の群れの動きをプログラミングした。ばらばらに動かす、集団になって一定の規則で動かす、動かす向きを変えるなど、高校生にとって初めての経験でも、プログラミングに親しんでもらうことができた。</p>
--	--

取組②：環境・防災サイエンスツアー	
時期	2023年6-11月
対象	中学生・高校生 教員・保護者
人数	中学生 7人 高校生 26人 教員 4人 保護者 5人
形態	すべて対面
場所	<p>京大芦生研究林 京大上賀茂試験地 京都光華女子大学 京都光華高校</p> <p>②環境・防災サイエンスツアー 主に週末を利用して親子参加型のフィールドワークや実験を取り入れた内容を実施した。</p> <p>②-1 2023年6月28日(計画内)</p> <p>場所：京都光華女子大学、対象：女子中1(2名)、女子中2(2名)、女子高1(6名)、女子高2(7名)、教員(2名)</p> <p>内容：教員から地球温暖化の現状や、屋上緑化によるヒートアイランド現象の削減効果、肥料の有効性や植物の品種改良など化学的な視点から園芸に関する話をした。ミニ講座後は、女子中高生がお花の寄せ植えにチャレンジした。</p> <p>工夫：女性中高生に関心がありそうな花の寄せ植えだけでなく、最初に化学的な観点から肥料や植物の成長に関するミニ講座を実施することで、理系への興味関心を高めるように心がけた。</p> <p>②-2 2023年8月12日(計画内)</p> <p>場所：京都大学芦生研究林、対象：女子中1(3名)、女子高1(1名)、保護者(4名)</p> <p>内容：都会の喧騒を離れた幻想的な自然林の中でサイエンスツアーを実施した。シカやクマによる食害を調査しているエリアでは、これらの調査には極めて長い年月を必要とすることや、さまざまな最新技術が適用されていること、さらに、女性の研究者である京都大学の坂野上なお先生から森林研究の魅力や楽しさについてお話いただいた。</p> <p>工夫：京都大学フィールド科学教育研究センターの坂野上先生から、専門的な研究内容のみならず、自身の女性研究者のキャリアについて、道中に語っていただいた。なお、募集には親子での参加を積極的に呼びかけた。</p> <p>②-3 2023年9月9日(計画内)</p> <p>場所：京都大学上賀茂試験地、対象：女子高1(3名)、女子高2(2名)、女子高3(1名)、保護者(1名)、教員(1名)</p> <p>内容：本学教員からJSTプログラムの概要説明の後、京大上賀茂試験地の西岡技術職員より試験地の歴史や背景について説明いただいた。最初に、「竹」と「松」の貴重な資料が展示されている資料室を見学し、世界の植物について知ることができた。続いて、フィールドワークでは、目的地に向かう途中で生息している「きのこ」に注目し、森の中のきのこの役割について知ることができた。</p>

	<p>工夫：親子での参加を積極的によびかけ、概論授業内でも本ツアーへの参加を呼びかけた。また、大学で環境学を学ぶ学生を TA として導入し、TA が教職員と参加した高校生との間にたつことで、自然な距離感でツアーを展開することができた。</p> <p>②-4 2023 年 11 月 15 日（計画外：後から追加） 場所：京都光華高校、対象：女子高 2（6 名）、教員（1 名） 内容：以前に、女子高生が自ら植えた花を使って、太陽電池を作成した。一般的な太陽電池はシリコンを原料とするが、環境配慮の観点から色素を原料とした色素増感太陽電池（DSC）が注目されている。ここでは、花から抽出した色素（アントシアニン）を使って、DSC を作成した。 工夫：環境やエネルギー問題解決の観点から、高校でも太陽電池の仕組みを教科書で学ぶが、自分たちが育てた花から太陽電池を制作することで、理系への興味関心をより生活に近い観点から感じてもらうことができた。</p>
--	---

<p>【2】効果的な活動（幅広い参加者募集、成果の普及など）</p> <p>○女子中学・高校訪問（6 月、10 月） 本学の学生募集活動に合わせて、女子中学・高校訪問 49 校（該当エリアのすべての女子中高）を含め、共学校を含めて約 500 校程度の中高校を訪問した。訪問の際には、これまでの取組内容や今後実施予定のイベントを紹介した。</p> <p>○広報用パンフレットの制作（2～3 月） R5 年度の実績（アンケート結果を含む）を掲載した広報用パンフレットを 500 部制作した。一部を京都府教育委員会と大阪府教育委員会に配架した。残りは、本学の学生募集活動に合わせて、順次学校訪問で使用した。</p> <p>○特設ホームページの更新&動画コンテンツ作成（2～3 月） 本事業の特設ホームページにアンケート結果等の実績を追加掲載した。また、ロールモデル提示の観点から、理系の女性研究者（大学教員）と進路に悩む女子中高生の対談動画を作成し、SNS で配信している。</p> <p>○教育委員会、教科ワーキング、京都府私立小学校・中学高等学校連合会を通じた広報（9、3 月） 主に、環境・防災サイエンスツアー実施前に、参加者募集で協力いただいた。</p> <p>○学会等での発表（6 月） 日本環境学会第 49 回研究発表会（場所：静岡文化芸術大学） 制作した VR 動画を紹介し、その教育効果について発表した。また、取組全体も紹介し、「環境・防災サイエンスツアー」に参加した人の方が、「概論授業」に参加した人よりも理系進路選択に関心を抱く傾向にあることを報告した。</p> <p>【3】事業の継続性</p> <p>○参加機関との定例会（9 月、3 月） 本プログラムに参加いただいた教員、教育委員会の統括指導主事に参加いただき、半期ごとに定例会を開催し、取組内容の振り返りと今後の事業内容について検討した。なお、このような定例会は事業終了後も継続する予定である。 （2023 年 9 月定例会参加者） 京都府教育庁指導部高校教育課 田中 誠樹 総括指導主事 大阪府教育庁教育振興室高校教育改革課 杉本 勇氣 主任指導主事 京都府立北稜高等学校 松原 久 先生 京都府立東稜高等学校 糟野 讓司 先生</p>

京都光華中学校/高等学校 間浦 幹浩 先生

(主な内容)

教育委員会からは、女子の方が理系に対する苦手意識が高いものの、「理系は好きだけど、勉強が苦手」という生徒に対するアプローチの重要性をお示しいただいた。同時に、高校生が早い段階から理系に興味をもってもらうための「早期履修制度」の有効性についても述べられた。

(2024年3月定例会参加者)

京都府教育庁指導部高校教育課 田中 誠樹 総括指導主事

大阪府教育庁教育振興室高校教育改革課 杉本 勇氣 主任指導主事

京都府立北稜高等学校 松原 久 先生

京都府立東稜高等学校 糟野 譲司 先生

京都光華中学校/高等学校 間浦 幹浩 先生

(主な内容)

本 JST プログラムに参加いただいた教員から、現在の理系学習の取組概要を紹介いただき、教育委員会からは、本取組が各高校に広がりつつあること、取組に対する生徒の主体性が見えてきたことを評価いただいた。

○事業継続に関する今後の方向性について

京都光華女子大学の他、京都大学フィールド科学教育研究センターや連携機関のほとんどは既に社会貢献を目的とした出張講義システムが存在しており、幅広い学齢に対して様々な工夫を凝らした無料の出張講義を実施してきている。本プログラム期間では、本学がこれらの参加機関の出張講義システムを応用し、女子中高生に特化した理系進路支援プログラムを展開している。このため、事業終了後の中高校側の金銭的負担は少ないものと思われる。また、事業終了後も、本学については環境・防災サイエンスツアーを含め、出張講義に関するものはすべて自主財源で提供する。さらに、事業内容の振り返りのみならず、京都府・大阪府を中心に、理系を選択する女子中高生の動向等は常にリサーチする。なお、現状の女子中高生の理系進路選択支援プログラム運営委員会では、適宜、計画や実施内容の報告の他、PC管理や各専門部署からの講師招聘等を行っているが、事業終了後の本学内の運営体制については、学内の大学運営会議（現在のプログラム運営委員会メンバーが参加）にて検討することとする。

7-3. 教育委員会と民間企業との協力内容について

【1】教育委員会との協力内容

今年度、教育委員会からは定例会への参加の他、環境・防災サイエンスツアーなどのイベント広報でご協力いただいた。なお、現在は、R5年度の事業が無事に終了したことを報告し（2024年3月定例会）、R5年度以降も継続して教育委員会と連携する旨、相談している。

【2】民間企業との協力内容

教育委員会と同様、事業の企画提案書提出時で既に2年間（R4～R5年度）の民間企業の参加が確定しており、R5年度では、大阪科学技術センターから授業を提供いただいた。これらの企業・団体については、R5年度以降も環境・防災サイエンスツアー等で中高校側からリクエストがあった場合には協力していただけるよう体制を継続している。

7-4. 設定目標に対する自己評価

目標の達成度	達成できた
	○どちらかという達成できた
	どちらかという達成できなかった
	達成できなかった

上のよう
に判断した
根拠

女子中学生と女子高生を分けて分析した場合、女子中学生の達成率は、45%（実績：49人/目標：110人）に留まっているが、女子高生の達成率は225%（実績：338名/目標：150名）となり、大幅に目標値を超えたように見える。中学生の達成率に課題がありそうだが、昨年（35%）に比べ改善傾向にある。しかし、女子高生については、当初から計画していなかった高3生の参加が多かったために高い達成率となっており、高3生の206名を除けば、合計132名となり、達成率は88%まで低下することになる。

次に、保護者については、達成率46%（実績：16名/目標：35名）であったが、こちらも、昨年（26%）に比べて、増加傾向にあった。教員については、達成率86%（実績：30名/目標：35名）となり、昨年（106%）よりも減少した。

以前からの課題であった女子中学生と保護者については、目標未達であったものの、工夫により昨年よりも改善傾向がみられたこと、女子高生と教員については、目標未達であっても以前から高い水準を維持してきたこと等を鑑み、「どちらかというとな達成できた」と判断した。

7-5. 成果と分析、自己評価

アンケート（JST 指定）の結果をもとに、本事業全体の取組成果を分析する。Q3-1 単一回答「文系・理系のどちらを志望していますか。（取組参加前）」という質問に対して、取組参加前では、理系進路希望者は文系希望者の半分程度であり、進路に迷っている生徒も2割以上いた（図1）。

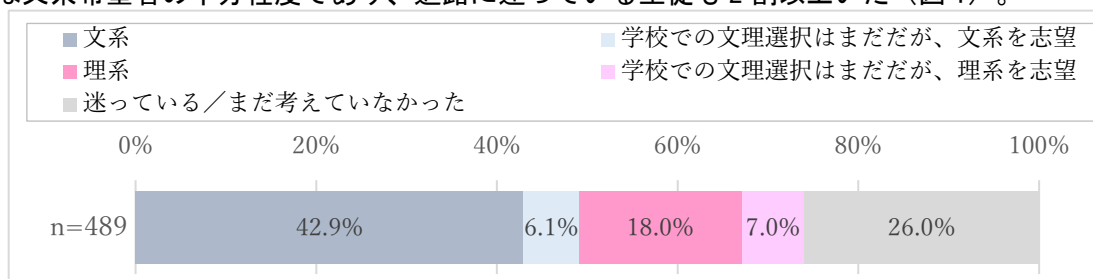


図1 文系・理系のどちらを志望していますか。（取組参加前）（N=489）

さらに、Q3-2 複数回答「文系・理系を志望する理由」（Q3-1で「迷っている/まだ考えていなかった」を除く）では、「理系が苦手だから」という理由が3番目に多かった。

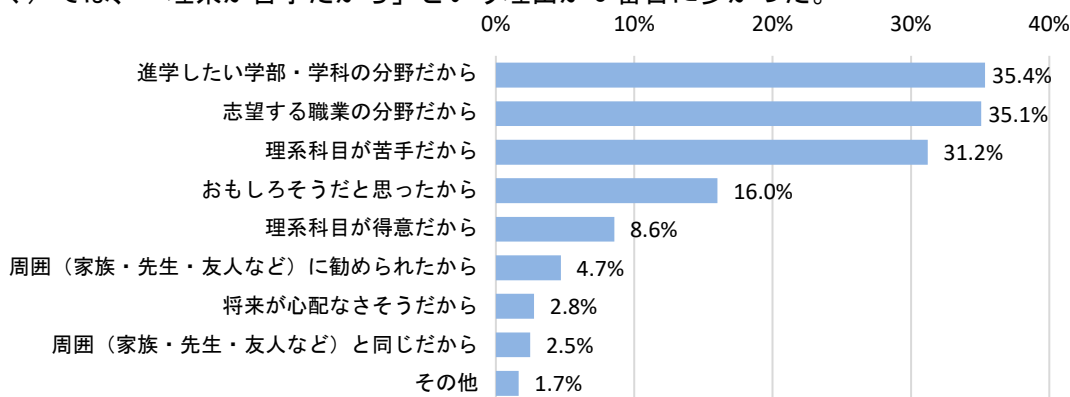


図2 文系・理系を志望する理由（N=362）

しかし、取組後では、Q7-2 単一回答「科学技術や理科・数学に対する興味・関心が高まった。」に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒が約7割となった（図3）。

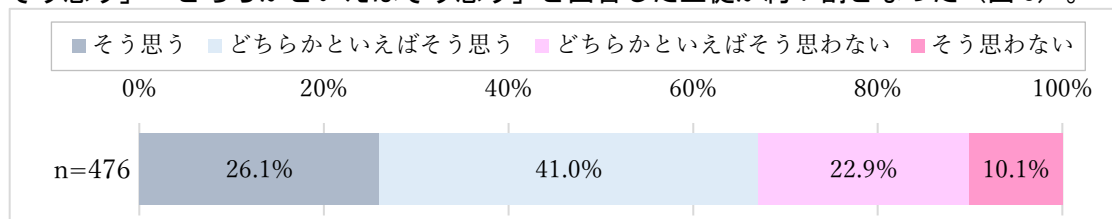


図3 科学技術や理科・数学に対する興味・関心が高まった。（N=476）

さらに、Q7-4 単一回答「理系の進路を前向きに選択しようと思うようになった。」に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒が半数を超えるまで増加した（図4）。

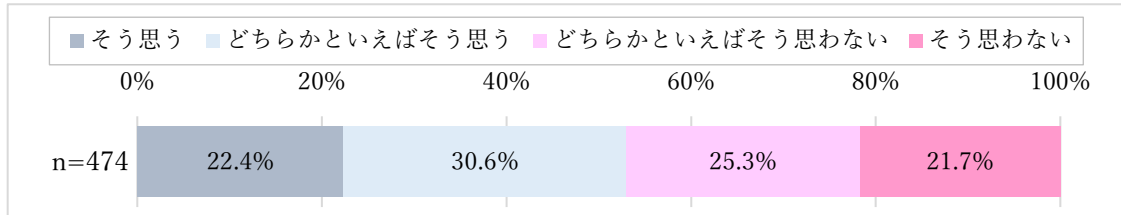


図4 理系の進路を前向きに選択しようと思うようになった。(N=474)

以上の結果から、環境と防災をテーマに、まず、概論授業にて社会問題の観点から学習し、その後、プログラミングや実験、フィールドワークへと展開するスキームを有する本事業については、文理選択に迷う女子中高生に対して、理系の魅力を伝えることができている。さらには、理系を選択するきっかけとなるような取組となっていると思われる。

8. 今後の課題と対応策

【1】今後の課題

推進委員から、「保護者については、オンライン参観や動画コンテンツの作成が計画されていたが、オンライン参観の効果が上がっていないことや、動画を作成中との報告があった。保護者に確実にアプローチする手立てを検討していただきたい。」というコメントをいただいている。これについては、現在、YouTubeの再生回数は350~450回程度であり、保護者に視聴依頼をするごとに増加傾向にあるので、継続して動画をPRしたい。

ただ、You Tube等のSNSについては、無料で掲載することができるが、支援終了後における、これらの取組内容の詳細を掲載したホームページの運用については、予算面や人員の面でも学内での調整が必要となる。

【2】JSTの支援終了後の継続性に関する構想

現在、本事業の実施担当者である高野がJSPS科研費24K05982（研究代表：高野拓樹）の助成を受けており、本研究内容がVR教育に関するものであるため、この部分の研究的取組とも連動させながら、支援終了後の運営について検討したい。

なお、「7-2.業務計画に対する結果の詳細【3】事業の継続性」で述べた通り、概論授業やサイエンスツアー（遠方除く）、企業と連携した取組については、本来、社会貢献事業として無料で提供してきたコンテンツであるため、これらの教育事業の継続について、予算面での問題は現時点ではない。

9. JSTへの意見、要望

特になし

II. 業務関係者一覧表（結果）

区分	本件業務での役割	氏名	所属		具体的な実施業務内容	従事期間	人件費・謝金支払	専従者・兼務者の別	緊急連絡責任者
			機関名・研究科 学部・担当等	役職名					
実施機関	実施責任者	高見 茂	京都光華女子大学	学長	実施責任者	2023年4月～2024年3月			
	契約担当者（対 JST）	高見 茂	京都光華女子大学	学長	契約担当者	2023年4月～2024年3月			
	実施主担当者	高野 拓樹	同大学・環境教育推進室	教授・室長	本件業務の実質的責任者	2023年4月～2024年3月			○
	連絡担当者	藤原 加織	同大学・学長戦略推進部	部長	本件業務にかかる事務	2023年4月～2024年3月			
	経理担当者	杉本 悠子	同大学・学長戦略推進部	部員	経理全般の窓口	2023年4月～2024年3月			
	業務参加者	間浦 幹浩	京都光華中学高等学校・環境教育推進室	教諭・室員	併設する女子中高との連携	2023年4月～2024年3月			
共同機関	共同実施担当者 （実施責任者兼務）	高見 茂	京都大学・地域連携教育研究推進ユニット	特任教授	京都光華女子大学と京都大学との連携担当	2023年4月～2024年3月			
連携機関	業務協力者	加藤 有一	関西電力・大阪科学技術センター・国際高等研究所	国際高等研究所専務理事	主にサイエンスツアー担当	2023年4月～2024年3月			
	実施担当者	田中 誠樹	京都府教育庁・指導部高校教育課指導第2係	総括指導主事	中高への広報・定例会参加	2023年4月～2024年3月			
	実施担当者	松下 信之	大阪府教育庁・教育振興室高等学校課教務グループ	首席指導主事	中高への広報・定例会参加	2023年4月～2024年3月			

Ⅲ. 業務体制図（結果）

